

地層処分セミナーin盛岡 開催結果

日 時：2016年9月10日（土）13：30～16：30

場 所：マリオス（盛岡地域交流センター）180・181 会議室（岩手県盛岡市）

後 援：経済産業省・資源エネルギー庁、日本経済団体連合会、日本商工会議所、経済同友会、全国商工会連合会、電気事業連合会、東北電力株式会社

参加者数：15名

プログラム：

（1）映像（DVD「地層処分とは」）

（2）説明 専門家、NUMO

■専門家（敬称略）

小峯 秀雄（早稲田大学理工学術院創造理工学部教授

総合資源エネルギー調査会 地層処分技術ワーキンググループ委員）

（3）質疑応答（主な内容）

Q. 緩衝材に使うベントナイトは何でできているのか。

A. ベントナイトとは、堆積した火山灰などが 1000 万年以上の長い時間をかけてできた天然の粘土鉱物である。

Q. 処分する廃棄物量は、40,000 本と決まっているのか。

A. 法律に基づく最終処分計画で 40,000 本以上と定められている。

Q. 地下に埋めた後、土地が隆起してエベレストのような山が出来たら、放射性廃棄物が地表に出て危ないのではないのか。

A. 廃棄物が地上に露出することは避けるべきであり、隆起速度が速いところは回避する。既往調査で隆起速度が速いところが示されている。現地調査では隆起・侵食も調査を行い、長期評価を行い、隆起速度が速い場所を回避することを考えている。

Q. 可逆性とか回収可能性という議論があったが、どうなっているのか。

A. 処分場の閉鎖までの間、将来世代が最良の処分方法を選択できるよう、新たな処分方法が選択できる可逆性を担保する事としている。また、処分場の閉鎖までに新たな処分方法が選択された場合に、ガラス固化体を回収できるようにする回収可能性を確保する事としている。

Q. 閉鎖後はどうなるのか。

A. 地下深く安定した地層への処分は、人間による管理を必要としないという考え方であるが、閉鎖後は、地域の皆さまと相談しながら、モニタリング等の対応を検討していきたいと考えている。モニタリングでは放射性物質の漏洩がないことを確認したり、地層処分システムが想定した状態になっていることを確認することになると思われるが、重要な研究課題である。

Q. 女性や若年層へのアプローチは行っていないのか。

A. 教育者向けの支援や副教材作成の支援や、ジオミライ号という子供向けの地層処分事業の 3D 映像が流せるトラックで全国の科学技術館等を行脚している。

○その他意見

- ・前回のシンポジウムでは、質問しようとしても時間の関係ということで一方的に打ち切られた。でも、今回は違う。こうして疑問や意見をきちんと聞いて、こうして答えてもらえると、納得する点も多々あるし信頼も感じられる。
- ・既に高レベル放射性廃棄物は現存している。そして早期にそれを処分しなければならいということがわかった。

以 上